

③資料作成・公開に関する事業一覧

プロジェクト名	担当部門	頁
文化財情報基盤の整備・ホームページの運用（企06）	企画情報部	55
専門的アーカイブの拡充（資料閲覧室運営）（企07）	企画情報部	57
無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化（無03）	無形文化遺産部	58
広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（企08）	企画情報部	59

文化財情報基盤の整備・ホームページの運用 (③企06-12-2/5)

目 的

文化財関係の情報を収集して積極的に発信するため、ネットワークのセキュリティの強化及び高速化等に対応した情報基盤の整備・充実を図り、システム面から文化財に関する専門的アーカイブの拡充、データベースの充実を支援する。

成 果

1. 情報システムの整備

情報システムの整備については、広報委員会のLAN委員、各部・センターのLAN担当で検討のうえで実施している。

(1)ネットワーク機器の更新 平成24年度にハードウェア保守の期限が切れるネットワーク機器を更新した。具体的には、所外への情報公開用DNS/Webサーバ、内部DNSサーバ及びDHCPサーバである。DHCPサーバは当初次年度の更新を予定していたが、節約により今年度末に更新することができた。(2)ネットワーク機器の新設 奈良文化財研究所との間でVPNによる接続を行い、それぞれにバックアップサーバを設置して定期的にバックアップを実施するためのシステムを整備した。また、一括管理が可能なセキュアな無線LANを導入した。(3)ネットワークセキュリティの向上：ウィルス対策として、2種類のウィルス駆除ソフトウェア（Kaspersky Anti-Virus及びESET NOD32）をそれぞれ125、130ライセンス（所内のコンピュータ台数のおよそ半数ずつ）導入し、全てのコンピュータが一斉に不具合を引き起こさないような工夫を行っている。(4)メールサーバのハードウェア保守期限切れのタイミングで、Google Apps for Businessを導入し、Gmailに移行した。

2. ウェブサイトの運用

研究所全体の広報、研究情報の発信としてウェブサイトの運用を行っている。各部・センターのサイトは各担当者が個別に管理しているが、行事案内や出版物情報は研究所トップで周知するなど利便性向上を図っている。

(1)リニューアル：昨年度に引き続きウェブサイトのトップページ及び案内、活動報告等全所的な情報に関するページのレイアウトを変更し、各種の情報へのアクセスの利便性を向上させた。研究所の業務紹介としては、東京文化財研究所の刊行物（図書）について2012年までのデータを追加掲載した。(2)データ集・データベース更新：『日本美術年鑑』所載美術界年史（彙報）（1970年から2009年まで）の掲載など、当研究所で蓄積しているデータの公開を実施した。さらに、美術研究所元職員の尾高鮮之助撮影の東南アジア・南アジア・西アジア関係の画像1,947枚を一般公開に向けて整理、所内ウェブサイトで公開した。(3)定期・不定期の情報更新：各部・センターの調査研究、会議や研究会の開催等の活動を、日本語及び英語での「活動報告」として毎月掲載した。また、研究会開催や職員募集、入札公告などの情報は、依頼があり次第ただちに掲載した。(4)メールマガジンの発信：活動報告を含むウェブサイトの更新情報、研究会開催、職員募集や入札公告などの情報を登録者に対して直接発信するため、メールマガジンの送信を随時行った。(5)アクセス数：ホームページのアクセス（訪問者数）はサーバ入替時にバンダーに保存期間を誤設定され、10月～2月のアクセスログが失われたが、上半期と3月の前年同月と比較すると、前年度の806,339件から今年度は717,919件と減少した。黒田記念館のページへのアクセスが、耐震補強工事による閉館に伴い大きく減少したのが理由と考えられる。その他のページのアクセス数は、前年度と同程度もしくは増加している。

3. 東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）への対応

東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業に関連する活動や被災した文化財などへの対応について、ウェブサイトによる情報発信を行った。

ホームページの主な更新履歴（定期刊行物、活動報告、公募情報を除く）

12.05.15	東京文化財研究所の刊行物（図書）2012年分 追加	企画情報部
12.06.07	第36回文化財の保存と修復に関する国際研究集会 開催案内	保存修復科学センター
12.06.07	研究会「タジキスタン国立古代博物館が所蔵する壁画断片の保存修復」開催案内	文化遺産国際協力センター
12.06.12	美術懇話会主催展観及び講話等 掲載	企画情報部
12.08.10	研究会「ブルーシールドと文化財緊急活動—国内委員会の役割と必要性—」開催	コンソーシアム
12.08.27	『日本美術年鑑』（当研究所刊行）所載美術界年史（彙報）掲載	企画情報部
12.08.31	第46回オープンレクチャー 開催案内	”
12.09.10	美術懇話会会員名簿掲載	”
12.09.13	第7回無形民俗文化財研究協議会 開催案内	無形文化遺産部
12.10.04	東京文化財研究所所蔵資料アーカイブズ『みづゑ』（試行版）公開	企画情報部
12.10.30	第7回東京文化財研究所無形文化遺産部公開学術講座 開催案内	無形文化遺産部
12.11.07	第26回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会 開催案内	保存修復科学センター
12.11.26	研究会「ブルーシールドと文化財緊急活動—国内委員会の役割と必要性—」開催	コンソーシアム
12.11.28	「ミャンマーにおける文化遺産保護の現状と課題」開催案内	文化遺産国際協力センター
12.12.26	第6回伝統的修復材料及び合成樹脂に関する研究会「建築文化財における塗装彩色部材の劣化と修理」	保存修復科学センター
13.01.07	被災文化財救援活動について考える会 語ろう！文化財レスキュー—被災文化財等救援委員会公開討論会—開催案内	救援委員会
13.02.14	平成24年度総会及び第11回研究会「文化遺産保護の国際動向」開催案内	コンソーシアム
13.02.25	研究会「文化財の放射線対策に関する研究会」開催案内	保存修復科学センター
13.03.29	パネル展示「山路」掲載	企画情報部

アクセスランキング

1	全体index	6	黒田記念館全体
2	黒田記念館資料編（日記、書簡、作品一覧等）	7	『日本美術年鑑』所載物故記事
3	文献目録、資料閲覧室、データベース等	8	文化遺産国際協力センター日本語
4	保存科学PDF	9	無形文化遺産研究報告PDF
5	東文研日本語	10	黒田清輝の生涯と芸術

研究組織

○二神葉子、田中淳、山梨絵美子、津田徹英、塩谷純、綿田稔、小林公治、小林達朗、皿井舞、城野誠治、中村明子、井上さやか、橘川英規、鳥光美佳子（以上、企画情報部）、広報委員（LAN）：川野邊渉、各部門LAN担当：崎部剛*1、高砂健介*2（研究支援推進部）、綿田稔（企画情報部）、飯島満（無形文化遺産部）、森井順之（保存修復科学センター）、加藤雅人（文化遺産国際協力センター）

*1 平成24年6月まで *2 平成24年7月から

専門的アーカイブの拡充（資料閲覧室運営）（③企07-12-2/5）

目 的

文化財関連資料の公開機関としての周知の広がりをつまみ、(1)受け入れた文化財関連の図書などの文字資料や、作成したアナログ・デジタル画像資料の登録管理、(2)閲覧室で月・水・金の週3回の一般利用者へ所蔵資料の提供、(3)データベースの作成、検索システムの構築・ホームページ上での諸情報の提供を通常業務とするとともに、提供する資料や情報の質に主眼を置き、より専門性の高い文化財関連資料や情報の収集・構築・公開の場として専門的アーカイブの充実を図ることを目的とする。

成 果

1. 資料閲覧室の運営

文化財に関する諸資料の収集・管理・公開・データベースの構築・運用を基本に、より充実したアーカイブ形成に努めた。その一環として、(1)インターネット上での公開を目指して画報社版『日本美術年鑑』のテキスト化を行った（近・現代視覚芸術研究室の協力による）。また、(2)劣化が進む資料類の保護対策の一環として貴重雑誌のデジタル画像化をすすめるとともに、(3)国内外の関連機関との協力関係構築とへの取り組みと有効な資料公開システム構築のため協議を行った。今年度はとくにイギリスのセインズベリー日本芸術研究所と提携に向けての協議を行った。

2. 画像情報室

他部・センター、他機関との共同調査研究により文化財の画像資料の収集・作成を行った。通常フルカラー画像撮影件数4,188件、特殊画像撮影件数816件、デジタル画像撮影の全体に占める割合100%。

3. 企画情報部にて作成・更新中のデータベース

標記のデータベースには以下の38種がある（作成件数31,333件、収録件数1,049,245件、公開件数1,025,731件）。

- | | |
|-------------------|----------------------|
| 1) 所蔵和漢書（～11） | 20) 展覧会（03以降） |
| 2) 受入和漢書（12年度分） | 21) 近現代作家名 |
| 3) 所蔵洋書 | 22) 近現代展覧会開催情報（35以降） |
| 4) 所蔵簡易図書 | 23) 写真原板 |
| 5) 売立目録 | 24) キャビネット写真 |
| 6) 所蔵美術館博物館収蔵目録 | 25) 古美術文献目録（明治～65） |
| 7) 和雑誌誌名 | 26) 美術文献目録（35～09） |
| 8) 所蔵洋雑誌誌名 | 27) 美術館博物館名 |
| 9) 所蔵中国雑誌誌名 | 28) 東京文化財研究所年表 |
| 10) 所蔵韓国雑誌誌名 | 29) 美術研究総目次 |
| 11) 所蔵和雑誌巻号（～02） | 30) 撮影調査票 |
| 12) 所蔵洋雑誌巻号（～05） | 31) 古美術展覧会開催情報 |
| 13) 所蔵和雑誌巻号（03以降） | 32) 物故者記事 |
| 14) 所蔵洋雑誌巻号（06以降） | 33) 美術懇話会 |
| 15) 所蔵中国雑誌巻号 | 34) 開所記念展覧会出品目録 |
| 16) 所蔵韓国雑誌巻号 | 35) 美術家美術関係者情報 |
| 17) 所蔵地方公共団体刊行報告書 | 36) 画廊情報 |
| 18) 所蔵香取秀真資料関係 | 37) 美術史論壇 |
| 19) 展覧会（02まで） | 38) 鈴木敬旧蔵資料目録 |

4. インターネット公開中の研究資料検索システムに提供中のデータベース

標記のデータベースには以下の15種がある。

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1) 美術関係図書 | 9) 画廊資料 |
| 2) 伝統芸能関係図書 | 10) 美術関係文献 |
| 3) 保存修復関係図書 | 11) 『保存科学』 所載文献 |
| 4) 売立目録 | 12) 伝統芸能関係三雑誌所載文献 |
| 5) 展覧会カタログ | 13) 『美術研究』 総目次 |
| 6) 和雑誌 | 14) 近現代美術展覧会開催情報 |
| 7) 写真原板 | 15) 伝統楽器情報 |
| 8) 美術家・美術関係者資料 | |

5. 図書受入数

和漢書885件、洋書41件、展覧会図録・報告書等3,868件、雑誌2,229件（受入総数7,023件）
38種の目録所在情報

6. 資料閲覧室の利用状況

公開日総数139日、利用者年間合計1,139人

研究組織

○綿田稔、田中淳、山梨絵美子、二神葉子、小林公治、津田徹英、塩谷純、小林達朗、皿井舞、城野誠治、井上さやか、橘川英規、中村明子、鳥光美佳子（以上、企画情報部）、飯島満、佐野千絵（以上、企画情報部併任）

無形文化遺産に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化（③無03-12-2/5）

目 的

無形文化遺産部では、旧芸能部時代から、文献資料のほかに、音声・画像資料を積極的に収集してきた。これらの記録は極めて貴重であるが、記録メディアの進展に伴って、より好環境のもとに保存してゆく必要がある。このため無形文化遺産部では、画像・音声・映像資料の媒体転換を進めてきたが、将来的には、デジタル化された各種資料の集積によって、デジタル・アーカイブの開設を目指している。

成 果

昨年度までに受入れ手続きが完了した資料の内、経年変化に伴う音質劣化が懸念されるオープンテープのデジタル化を昨年度に引き続き実施した。カセットテープに関しても、将来のデジタル化を視野に、収録内容の確認を含めた整理を行った。所蔵SPレコードの内、特殊な再生装置が必要な初期音盤の一部について、内容確認及び媒体変換を行った。

研究組織

○宮田繁幸、高桑いづみ、飯島満、今石みぎわ、綿貫潤、星野厚子、佐野真規（以上、無形文化遺産部）

広報企画事業（ニュースレター・概要・年報）（③企08-12-2/5）

目 的

本プロジェクトは研究所の業務に関する情報発信のうち特に紙媒体である『年報』『概要』『ニュース』、及び不定期に作成するパンフレットなどの編集・刊行を実施する。また、エントランスにおけるパネル展示などを通じて、来訪者に対しても研究所の活動をわかりやすく伝えることを目指す。

成 果

1. 『年報』2011年度版の刊行

2012年5月31日付で年報を刊行した。2011年度版の構成は従来通り、機構、年度計画及びプロジェクト報告、その他の研究活動、個人の研究業績、研究交流、主な所蔵資料、研究所関係資料、東京文化財研究所プロジェクト索引とした。発行にあたっては、各部・センターの年報担当者が原稿のとりまとめを行った。

2. 『概要』2012年度版の刊行

「概要」2012年度版を刊行した。概要は日英2カ国語により、研究所の組織や活動内容を簡潔かつ写真を多用してわかりやすく紹介している。各ページの構成は概要担当広報委員、編集担当及び各部・センターの概要担当者の協議によって決定し、原稿のとりまとめは、各部・センターの概要担当者が行った。

なお、「年報」「概要」いずれもPDFファイルでウェブサイトに掲載し、活動内容の情報公開に努めている。

3. 『東文研ニュース』の刊行

「東文研ニュース」を年4回（第49号～52号）発行した。基本的には、ウェブサイトに掲載した活動報告から四半期ごとの記事を掲載しているが、記事は活動報告から広報の必要性の高いものを各部・センターが選んでいる。また、「東文研ニュース」の英語版である「Tobunken News Digest」を年2回発行し、外国の関係機関への情報発信の手段とした。一方で、PDFファイルによるウェブサイトでの広報に次第にシフトし、「東文研ニュース」は印刷部数を前年度よりさらに減らすことで費用を節減した。

4. パネル展示の調整

1階エントランスロビーに研究成果を伝えるためのパネルを作成し、展示した。平成24年度は文化財レスキュー活動に関する展示を行い、24年度末に企画情報部による横山大観「山路」に関する展示に更新した。

2012年3月16日～2013年3月27日 「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会 この1年」（東京文化財研究所）

2013年3月28日～ 「横山大観《山路》の調査研究」（企画情報部）

研究組織

○二神葉子、田中淳、山梨絵美子、津田徹英、塩谷純、綿田稔、小林公治、小林達朗、皿井舞、城野誠治、中村明子、井上さやか、橘川英規、鳥光美佳子（以上、企画情報部）、広報委員『年報』：田中淳、各部門年報担当：崎部剛*1、平出秀文*2（研究支援推進部）、津田徹英、皿井舞（以上、企画情報部）、高桑いづみ（無形文化遺産部）、早川典子（保存修復科学センター）、山内和也（文化遺産国際協力センター）、広報委員『概要』：岡田健、各部門概要担当：安孫子卓史（研究支援推進部）、塩谷純（企画情報部）、今石みぎわ、高桑いづみ（以上、無形文化遺産部）、犬塚将英（保存修復科学センター）、友田正彦（文化遺産国際協力センター）、広報委員『ニュース』：宮田繁幸、各部門ニュース担当：安孫子卓史（研究支援推進部）、山梨絵美子（企画情報部）、今石みぎわ（無形文化遺産部）、吉田直人（保存修復科学センター）、江村知子（文化遺産国際協力センター）

*1 平成24年6月まで *2 平成24年7月から